



放散虫という生物は、とても小さな海洋微生物です。

放散虫は、アメーバ状の体の中に二酸化ケイ素というガラスに近い成分でできた骨格を持っているので、化石として残りやすく、世界中で化石が見つかっています。0.05mm から0.1mm ほどの小さな骨格は約5億年以上前の地層からも見つかっていて、様々な種が現在まで進化を繰り返しています。その種を調べることで地層の年代を特定するのに役立つため、地質学の分野では知られる存在ですが、生物としてはどのように生まれ育ち、何を食べるのかもよく分からない謎の多い生物でもあります。太古の昔から現在までの多様な放散虫の形をぜひ楽しんでください。